令和3年度第1回文化財調査会 議事録概要

- 1 日時 令和3年8月2日(月) 13:30~15:00
- 2 場所 鈴鹿市役所 5階 502・503 会議室
- 3 出席者
(文化財調査会委員) 衣斐弘行(会長) 植村明也 小澤毅 笥真理子
河原徳子 岸田早苗 菅原洋一 鈴木えりも
塚本明 諸戸靖 采畢真澄 渡邊潤子
(事務局) 文化財課長 野呂和伸
文化財課文化財GL 中尾 文
文化財G 土屋潤一郎 加藤 誠
代田美里 田中里美
発掘調査GL 常山隆宏
- 4 欠席委員 小谷成子 瀧川和也 山口泰弘
- 5 議事
 - (1) 令和3年度の事業計画について
 - ①文化財関係
 - ・主な事業計画 (別紙1)
 - ・金生水沼沢植物群落保護増殖事業 (別紙2)
 - ②発掘調査関係 (別紙3)
 - (2) 調査報告について
 - ・樹木調査 (別紙4)
 - (3) 寄贈資料について (別紙5)
 - (4) 寺尾家住宅の屋根補修について (別紙6)
 - (5) 文化財保存活用地域計画について (別紙7)
 - (6) 勝速日神社祭礼用山車修復について (別紙8)
- 6 その他
 - (1) 指定文化財候補について
 - (2) 地藏大マツ樹勢について
- 7 傍聴人 1名
- 8 内容
課長：鈴鹿市文化財保護条例施行規則第9条の6 第2項の規定により委員の半数以上に出席いただいたので、本調査会が成立することを確認し、令和3年度第1回文化財調査会を始めさせていただきます。
部長：(挨拶) 本日は、限られた時間だが、十分にご審議いただくことをお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

事務局：鈴鹿市文化財調査会委員の委嘱期間について、令和5年6月30日までとなる。本調査会の代表である会長職は、鈴鹿市文化財保護条例 施行規則第9条の5第1項により、委員の先生方の互選により決定していただく。また、同規則第9条の5第2項により、会長から職務代理者を指名していただく。

(会長選任・決定、職務代理者指名・決定)

課 長：鈴鹿市文化財保護条例施行規則第9条の6第3項により、会長に議長をお願いする。

(新しい委員の紹介)

(部長退席)

(配布資料の確認)

事務局：鈴鹿市情報公開条例 第37条の規定により、会議は公開が原則。同条例第37条第1項第2号には、「会議を公開することにより、当該会議の公正又は円滑な運営に著しい支障が生ずると認められる場合」非公開とすることができる。事項5の(6)及び事項6の(1)については、事項内容からこちらに該当するため、協議いただきたい。傍聴人は1名。議事録は、要約記録として公開。

会 長：事項5の(6)及び事項の6(1)は非公開とする。

< 5 (1) 令和3年度の事業計画について ①文化財関係(別紙1・2) >

事務局：大黒屋光太夫記念館企画展は、3月18日～7月19日まで「光太夫の里がえり」をテーマとして開催。7月22日～10月17日まで、「知っておどろき！大黒屋光太夫」を展示開催中。今後、10月、1月にも企画展を実施予定。

金生水沼沢植物群落観察会は、5月の観察会は、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止。6月26日及び7月24日は観察会を実施。今後は9月11日と11月6日の開催予定。

伊勢型紙資料館は、新蔵で6月23日～9月12日まで「型紙の中の海」の企画展を開催。9月16日～12月上旬も企画展を開催予定。8月28日、29日に、伊勢型紙技術会保存会主催の企画展があるが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、規模を縮小して実施。児童へのチ

ラシ配布や夏休み中の彫刻体験等は自粛し、会員が作成した復刻作品の展示替えを行う。

伊奈富神社庭園の保存修理・保存事業は、前回の調査会で報告した内容で実施予定。第14回伊奈富神社庭園保存修理調査委員会は10月下旬、第15回の委員会は2月上旬の開催予定。委員会は、保存事業終了後の管理の在り方を示す保存管理方針の検討を行う。修復工事は6年目の工事となり、庭園西側の3つの島の追加盛土の工事を行う。施工期間は11月下旬から12月中旬を予定。活用事業は11月上旬に工事現場見学会の実施を計画。鈴鹿市稻生民俗資料館における修復工事報告展は、継続実施中。

1月中旬は、文化財防火関係で、防火訓練・防火査察を予定。

3月初旬は、第2回目の文化財調査会の開催予定。

北勢4市の文化財協議会は、亀山市で開催だが、開催の有無は現時点で未定。日程が分かり次第お伝えする。

金生水沼沢植物群保護増殖事業は、第1回観察会は、新型コロナウイルスの影響で中止。第3回観察会は、サギソウが咲く時期は毎年人気のため、参加枠を2回に増やして開催。申込みは多数あり大変盛況だった。今後の観察会も、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、同時に除草作業も行っていく。

< 5 (1) 令和3年度の事業計画について ②発掘調査関係 (別紙3) >

事務局：遺跡内での開発行為に先立ち実施する緊急発掘調査は、現在5件が確定。木田町に所在する磐城山遺跡の第14-2次および第15次調査がある。いずれも農地改良に先立つ記録保存調査。磐城山遺跡に隣接する木田城跡は、現況図を作成し記録保存を図る。平野町に所在する平野遺跡 第6次調査は、既に現地作業を終了。飯野寺家町に所在する沢城跡の第5次調査は、宅地造成に先立つ記録保存の調査。公共事業に際して実施する発掘調査については、現時点での計画はない。

学術調査は、2件を予定。1件目は、国分町に所在する富士山1号墳の発掘調査で、昨年度作成した現況図により前方後円墳もしくは帆立貝式古墳であることが分かった。将来的には市の史跡指定も視野に入れながら進める方針。2件目は、伊勢国府跡の学術調査で、調査次数は今回で41。昨年度から、北方官衙の内部構造を把握するための調査に着手しており、令和4年2月頃に指導会議を開催予定。

範囲確認調査は15件、工事時の立会い調査は10件を実施済み。

事業報告は、本報告書として、『磐城山遺跡 第11・12・13・13-2次調査報告書』を刊行予定。伊勢国府跡調査や、昨年度実施の小規模調査の成果は、『伊勢国府跡24』もしくは『鈴鹿市考古博物館年報 第23号』にて報告予定。

遺物整理事業は、平成30年度に実施した大下遺跡 第1次発掘調査で出土した木樋（木製の水路）の保存処理や、土器の実測業務を業者委託で行う。

公開普及活動として、ツイッターやフェイスブック等のSNSを用いた「発掘調査ニュース」の発信を随時行う。令和3年3月20日から6月20日にかけては、速報展「発掘された鈴鹿2020」を実施し、1,386名の来場を得た。令和4年3月19日からは、速報展「発掘された鈴鹿2021」を開催予定。また、磐城山遺跡 第14次発掘調査現場の一般公開を6月6日に実施し、65名の参加を得た。現在調査中の富士山1号墳についても、11月ごろに一般公開予定。

< 5 (2) 調査報告について 樹木調査 (別紙4) >

委員：令和3年1月19日に、主に地上部の状態を調査・診断した。石薬師の蒲桜は、腐朽状態が大きい。原因は、穿孔性食葉性害虫が被害を及ぼしている。被害程度の区分判定から、樹勢にかなり強い影響を与える状態になっている。大きな悪化は見当たらなかったものの、古い幹、根元の株の腐朽が進行していることがわかった。原因は、穿孔性の昆虫コスカシバ、カミキリムシの食害による。対策としては、穿孔性昆虫の防除、食葉虫の駆除、土壌改良が必要。

大木神社の椎の森のスダジイは、腐朽状態、病虫害共に、大きな影響があることがわかった。被害程度の区分判定は、葉、枝、樹幹共に深刻な状態。倒木の危険性もあるため、早急に対応が必要。椎の木以外の樹木も多く生えてきており、新しい椎の株を圧迫する状態になっている。また、サルノコシカケ（茸）が大きな椎の木に付いており、これが木に姿を現すと、樹勢が弱まってしまう。対策としては、危険木は速やかに補強、もしくは伐採を行う必要があり、病虫害の駆除も必要。

子安観音の白子不断桜は、状態がよくなっていて樹勢もいい方向。部分的には若干腐朽状態がみられるが、おおむね良好な状態。但し、不要な枝の剪定が必要。また、機能がどんどん低下している主幹は、関係者に十分理解を得た上で剪定を行う必要がある。

< 5 (3) 寄贈資料について (別紙5) >

事務局：今年4月12日(月)に、市長室で寄贈式を行った。寄贈者は、赤工朝飛氏(赤工佐久良氏の御子息)。大黒屋光太夫自筆の掛軸は、現在40点弱が確認されているが、大黒屋光太夫記念館ではその約半数を所蔵。今回寄贈の「福寿」は、年記が文化9年で、光太夫が62歳の時の作品。年代がわかるものの中では一番古い。もともと北大路魯山人や川喜田半泥子などとも交流の深かった伊坂又右衛門より元鈴鹿市長・杉本龍造に贈られた品であり、来歴がはっきりしているもの。その他に、尾崎罌堂の額、斎藤拙堂の額等も一緒に寄贈いただいた。

< 5 (4) 寺尾家住宅の屋根補修について (別紙6) >

事務局：昨年度より、旧蔵の瓦、漆喰のひび割れなど劣化が散見された。昨年度末に割れた瓦の交換と修理を行い、今年度4月に漆喰の修復を行った。旧蔵は、鈴鹿市指定文化財のため、「現状維持を基本として過度な手入れは行わずに可能な限り現在の部材を活かすこと」を基本方針として修復を行った。劣化が激しいため、必要に応じて漆喰面の塗装を除去した後に、同種の素材を使って同じ工法で修復する仕様を定めて行った。また下地にまで欠損が見られる場合にも、同素材によって下地調整を行い、中塗り修理を施した後に漆喰の修復を行った。

面戸漆喰補修は、長年の経過によって面戸部分の漆喰が流出してなくなっていたため、約4.8mの範囲を復元。南出隅のひび割れが進んで、剥落、落下していたため、尺トンボを伏せ込みし、表面塗装し復元した。北出隅ののし瓦の合わせ部分も復元。

庇については、旧蔵の本体に対して庇が大きいことから、旧蔵の本体から庇の部分だけがどんどん離れており、隙間ができてしまっている。その隙間から、漆喰や下地が流出し跡を残してしまっており、構造的には、庇と土蔵が乖離してしまっているのは止められない状態にある。今回修復は完了したが、いずれまた隙間が開いてくると、漆喰が流出してしまう可能性はある。

東西波模様仕上げは、西と東の庇の端っこの部分に漆喰で波模様の造作で、両方とも経年劣化で破損。回収できたものを元にして模様を復元施工。その他、部分的に剥落、亀裂が入っている部分も修復した。

< 5 (5) 文化財保存活用地域計画について (別紙7) >

事務局：文化財保存活用地域計画の作成状況について報告する。国の認定は、令和5年度冬に受ける予定で4年間にわたり作成を計画。作成にあたり、記載が必須の文化財保存活用地域計画に定める基本的な事項と、記載が任意の必要に応じて定めることができる事項があり、それぞれ定められている。執筆にあたり、構成、内容を説明する。

市町村の歴史文化の特徴について、古代の伊勢国分寺、伊勢国府や近世の白子の伊勢木綿、廻船、伊勢型紙等、鈴鹿市における歴史文化の特徴がある。また、鈴鹿市の史上最も大きな転換点として、太平洋戦争下の軍都鈴鹿市としての市制発足がある。現代の鈴鹿市から市制発足へと過去にさかのぼり、更に市制発足以前にさかのぼっていくという順序にて、歴史の変遷を構成予定。

現代の鈴鹿市の特徴としては、大きく3つあり、「農工のバランスが取れた街」、「鈴鹿サーキットの街」、また、「中心市街地がない街」が挙げられる。鈴鹿市は核となる中心市街地がなく、神戸地区、白子地区、平田地区による3つの市街地に分散されている。このような分布の都市形成は、全国的にも極めて稀。そのように特徴付けた大きな転換点は、1942年の市政発足時と、1950年代以降の工場誘致時で、それぞれの時代(戦中・戦後)で執筆する予定。市制発足以前については、鈴鹿市は、鈴鹿郡、河曲郡、菴芸郡といった三郡に分かれており、その三郡は現代の鈴鹿市の特徴的な3つの市街地にも影響を与えている。鈴鹿市の特徴、鈴鹿市らしさの原点を三郡に見出していく。今回、歴史文化の特徴を整理することに伴い、市内の歴史文化の新たな価値づけを行い、市民の方々の郷土愛の醸成につなげたいと考える。

文化財の保存・活用に関する課題・方針・措置については、現在作成途中。昨年度、地域づくり協議会(市内28団体)を対象に、「地域アンケート」を行い、課題方針措置に着手していたが、対象者が地域の自治会長、文化財の所有者であったことから、市民の意見の総意ではないという点をふまえ、今年度9月に、鈴鹿市住民から無作為抽出された3,000人を対象とした「令和3年度 住民アンケート」を実施する。こちらの結果も反映させ、文化財の保存活用の課題・方針を決定していく段取りとする。

次に、文化財を把握するための調査に関する事項は、地域計画作成に伴い、未指定文化財の調査が必須となっており、最終的には未指定文化財リストを作成し、国に提出予定。昨年度から地域づくり協議会

(市内 28 団体)を対象に、アンケート形式にて未指定文化財の掘り起こしを実施。約 700 件の回答を得られた。今年はそのをリスト化し、鈴鹿市が把握している文化財情報と合わせた情報を、地域の方々へお返しする形をとる。その中で、鈴鹿市が知りえない文化財については、補完調査を行う。リストは、所有者のプライバシーの問題、防犯上の問題から、原則非公開。ただし、活用していただくための制度については、「(仮)すずか遺産」という名称も含め現在検討中。

関連文化財群に関する事項(任意)についても、地域計画に掲載を検討中。鈴鹿市の約 100 の指定文化財を、より多くの市民に広く周知するため、市民に親しみやすい形で整理することを目的としてとりかかっている。設定基準は、「①鈴鹿市の歴史文化を語る上で不可欠なもの ②全国的に見ても希少な特徴であるもの ③今後、戦略的に保存・活用措置を行っていくべきもの」という 3 つの観点から選りだし、4 つの関連文化財を設定。ひとつめは、大黒屋光太夫を切り口とした「紀州藩と白子～白子廻船と木綿荷物～白子廻船の船頭大黒屋光太夫」。次に、伊勢型紙の「技術～型商と伊勢街道～デザイン」。観光客によっても、関心が異なるため、それぞれの関心に合わせたストーリーを設定して構成。次に、県外の方々にはあまり知られていない神戸城「沢城と神戸氏～織田信孝～本多氏と神戸城」。織田信孝という名前を前面にだしていく。最後に、伊勢国分寺跡・伊勢国府跡「国府町・国分町の由来～国府・方格街区～国分寺と大鹿氏～古代東海道」となる。

また、文化財保存活用区域に関する事項(任意)については、協議をしたところ、鈴鹿市においてはこのような景観区域はなく、市民気運の高まりもないことから、現時点での設定は困難という結論になっている。令和 5 年度、この地域計画の出発時点では、「関連文化財群」、「(仮)すずか遺産」の制度でスタートし、必要に応じて、計画の改定時期に改めて検討する。

委員：市政発足以前の三郡は、鈴鹿郡、河曲郡(かわのぐん)、奄芸郡と思うが、市制発足時点では鈴鹿郡、河芸郡の二郡だった。1879 年に三郡として設立したが、河曲郡(かわのぐん)の読み方について、1879 年度時点では、河曲郡(かわわぐん)だったか。どの時点で、“かわわ”から“かわの”という読み方になったか。

事務局：確認する。

委員：全体の枠組みについて、鈴鹿市史の市民向けのダイジェスト版を作るという構想か。

事務局：鈴鹿市史の中の要点だけ、エッセンスだけを集めたものになる。
委 員：地域総合計画のプロジェクトとしてやるのか。
事務局：鈴鹿市文化財課が作成し、最終的に調査会で承認いただく。
委 員：協議会の要請か、文化庁の要請か。
事務局：鈴鹿市として作成する。
委 員：市民に広く配布するものか。
事務局：最終的にはそのようになる。
委 員：枠組みとして、慎重な議論したほうがよい。
委 員：県の大綱との整合性も考慮すること。
委 員：歴史学というのは古い時代から新しい年代に変わっていくもので、現代に伝わっていない要素というのがたくさんある。そういったものが、今回のような構成の発想だと落ちてしまわないか。きちんと検討いただきたい。

(傍聴人退室)

< 5 (6) 勝速日神社祭礼用山車修復について (別紙8) >

< 6 その他 (1) 指定文化財候補について >

(傍聴人入室)

< 6 その他 (2) 地蔵大マツ樹勢について >

事務局：地蔵大マツは、西玉垣町自治会が所有する県指定天然記念物。枝折れが続いていたため、主幹及び太枝の固定を行い、倒壊防止のためにケーブルリングを設置。張り具合から、対象の大枝が傾いてきていることが判明したため、大枝より派生した上部の枝を除去。枝元及び樹木本体へ負担を軽減する措置し、再度ケーブルリングを行った。カイガラムシ被害も多発しているため、薬剤の樹幹注入による殺虫作業を行った。今後精密診断を実施していく。

会 長：議事はこれで終了。

事務局：今回は来年3月初め頃。